

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	公園管理課
課長名	花田 隆一

事業名	到津の森公園など市内の教育関係施設による人材育成				施策番号	
					I - 3 - (1) - ②	
事業概要	到津の森公園と市内の4施設(ほたる館・水環境館・板櫃川「水辺の楽校」・洞海ビオパーク)が連携し、市内の小学生等を対象に、動物や自然とのふれあいを通じて命の大切さや自然環境の保護の必要性を学ぶ環境学習プログラムを実施するもの。H24年度は①一日学習プログラム(5館連携)、②遠足向け学習プログラム、③長期学習プログラム、④先生向け研修会の4つのプログラムを実施した。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長
事業費	8,500 千円	8,500 千円		2,500 千円	係長	0.11人
					職員	0.11人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	到津の森公園は、「市民環境力」を高めるため、市内の教育関係施設(ほたる館、水環境館、板櫃川「水辺の楽校」、洞海ビオパーク)と連携し、市内の小学生を対象に体験活動を通じた3つの環境学習プログラム(①～③)と小学校の教師を対象にしたプログラムを提供して、子どもたちに命の大切さを教え、自然環境の保全に対する意識を醸成します。学習内容は命や環境、自然などいくつかのテーマの中から選択でき、①長期学習プログラム(園での通年の総合学習)、②1日学習プログラム(園と市内教育施設の中から選択した施設、その2施設が連携した学習プログラム)、③遠足向け学習プログラム(遠足で園を利用する小学生のための学習プログラム)などがあります。				成果実績	参加者数は、前年に比べ増加しており、参加者からは「環境保全や命の大切さを実感した、児童の関心が高まった」という感想が寄せられています。
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態にします	—	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態を目指します。	—	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態であることを数値で表すことは困難です。			— %			順調
	(最終目標と目標年度)					やや遅れ	順調
(最終目標と目標年度)					遅れ		

活動計画	到津の森公園と市内4施設が連携し、学習プログラムを実施します。(体験学習の機会の提供) H24年度 参加予定校数:45校、参加予定者数:3,550人	活動実績	H24年度は特別支援学級の受け入れを開始しました。また、教科書に合わせた2年生のプログラムの充実を図るとともに、長期学習プログラムの受入れ学年を増やしました。
------	---	------	---

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	到津の森公園環境学習プログラムの参加者数			4,235 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	環境学習プログラムへの参加者を増加させ、「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識の醸成を図ります。	3,779 人	3,550 人	119.3 %		
						やや遅れ
					遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態であることを数値で表すことは困難ですが、参加者数は増加しており、本事業の活動内容が着実に浸透していると判断しました。学習プログラムを学校活動に取り入れる学校数も増加しており、有効性の高い活動ができていると考えています。今年度も新たに受入れ対象を広げるなど、事業目的を達成する工夫を毎年加えていることの効果があがっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	教育委員会や市内教育関係施設と協力のもと、事業実施の核となる到津の森公園の指定管理者に直接事務委託をしていることから、質の高いプログラムを低いコストで提供することができます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	田口

事業名	総合的な治水対策の推進				施策番号	
					II - 1 - (4) - ③	
事業概要	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、河川整備や公共下水道の整備を進めるとともに流域全体の貯留・浸透・保水能力の向上など総合的な治水対策の検討を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	2,208,910 千円	2,366,000 千円			86,500 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、河川整備や公共下水道の整備を進めるとともに流域全体の貯留・浸透・保水能力の向上など総合的な治水対策の検討を行います。			成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、浸水被害の低減を目指します。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	浸水被害の低減	—	浸水被害の低減を目指します。	—	大変順調	順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	近年の集中豪雨など、雨の降り方により、被害の規模が違うため、一概に比較することは困難ですが、浸水被害の低減を図ります。 (最終目標と目標年度)			—			
					やや遅れ	順調	
(最終目標と目標年度)				遅れ			

活動計画	H21、22の豪雨により浸水被害が発生した河川の重点的な整備をはじめ、優先度の高い河川について護岸工事等を行い、河川整備の進捗を図ります。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	河川整備率	79 %	80 %	80 %	大変順調	順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	河川の拡幅や河床の掘削等を行い、河川整備率を上げることにより、治水対策を進めます。			100.0 %			
					やや遅れ	順調	
				遅れ			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、浸水対策に効果的な整備を図っていきます。 平成24年度に河川整備率の見直しを行いました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	河川整備・雨水整備は浸水被害の根本的な解決策であり、効率的な方法だと考えます。また、整備箇所毎に最も経済的な方法を検討し整備を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	橋口

事業名	ボランティアネットワークの推進(道路サポーター)					施策番号 Ⅲ - 1 - (1) - ③		
	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長	0.05人
	14,624 千円	18,702 千円			9,400 千円	係長	0.17人	
							職員	0.95人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	道路、公園、河川のボランティア活動を行うこと、団体相互の情報交換や活動の共有化(ネットワーク)を行うことで、事業のさらなる発展と本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	道路サポーター加入団体数	179 団体	205 団体	187 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することが望ましいため、加入団体数としました。 (最終目標と目標年度)平成25年度までに220団体			91.2 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	今年度は、昨年度に引き続き、清掃活動等の支援(清掃用具や花苗の支給など)をNPO法人に委託します。また、活動団体の交流・連携を図る目的で総会を開催します。今年度から、道路サポーター活動団体で構成される「北九州市道路サポーターの会」を設立し、区会を設けて、身近なところで活動団体同士で話し合い、活動団体自らが課題解決を図ります。また、区会で培われる横の連携により脱退引止と新規加入団体を振り起こします。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	道路サポーター活動団体結成促進のためのPR活動等	—	—	予定どおり実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	エコライフステージへの出展や、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、道路サポーター活動について市民の方に関心を持っていただき、道路サポーター活動団体の結成促進につながるよう努めます。			— %		
(最終目標と目標年度)					順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動は予定どおり行いましたが、成果は目標に届きませんでした。新規に加入する団体数は一定数ありましたが、一方で、活動団体の解散が増えてきたことが要因と考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	広報にコストをかけずに、多くの市民に本制度を知っていただくため、清掃活動に関する各種イベントへの参加や活動団体の交流・連携のために開催する総会への一般参加の受け入れ等を行っています。民間活力導入については、ボランティア活動を支援する企業等が現在の市の支援レベルを確保できれば、可能性はあると考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	公園管理課
課長名	菊山

事業名	ボランティアネットワークの推進(公園愛護会)				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要	10名以上の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成しています。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.24人 係長 0.45人 職員 1.45人
事業費	45,611 千円	46,215 千円		18,135 千円		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	街区公園の維持管理業務のうち、清掃や除草などについて、地元等で結成されている公園愛護会と協働による事業の実施を図るため、公園愛護会へ助成金を交付しています。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	公園愛護会結成状況	1,159 団体	1,155 団体	1,155 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	高齡化、少子化、さらには経済不況などの影響に伴い、ボランティア活動を行う団体の解散もあることから、全体の結成数を現状維持とし、H25年度時点で1,160団体を目指します。 (最終目標と目標年度)			100.0 %			
							順調
(最終目標と目標年度)							

活動計画	新規結成: 20団体(H21年度⇒H25年度) 全体の結成数: 1,150団体(H23年度目標)⇒1,155団体(H24年度目標)	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	公園愛護会結成のためのPR活動等	—	—	予定どおり実施	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	エコライフステージへの出展や、都市緑化祭での市長表彰の実施、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、公園愛護会活動について市民の方に関心を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながよう努めます。			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	会員の減少、高齡化により解散する団体も多し中、成果指標・活動指標ともに目標を達成し、状況はいずれも順調です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業はボランティア団体である公園愛護会と協働を図ることで、公園の維持管理コストの一部削減を実現しています。本事業を止めた場合、公園の維持管理コストが増大し、また適切な維持管理が出来なくなる恐れがあります。公園愛護会との長年の協働が、現状の公園の維持管理につながっていると考えます。ボランティア団体による活動であるため、補助金交付や公園整備等、市の関与をなくすことは出来ません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	田口

事業名	ボランティアネットワークの推進(河川愛護団体)				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、地域の河川を身近に感じてもらい、美化活動を広げていきます。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	2,340 千円	2,540 千円		14,600 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、地域の河川を身近に感じてもらい、美化活動を広げていきます。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	河川愛護団体数			66 団体			大変順調 順調
	河川における美化活動を広げるためには、地域での意識を高めるために、身近な団体を作り、情報発信を行う必要があります。 (最終目標と目標年度)平成25年度末で71団体	69 団体	74 団体	89.2 %	やや遅れ 遅れ	やや遅れ	
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	<ul style="list-style-type: none"> 河川愛護団体へ補助金の交付を行い清掃や除草等の活動を支援します。 エコライフステージに出展し、道路サポーターや公園愛護会とともに河川愛護団体の活動を紹介します。 永年に渡って熱心に活動に取り組まれている愛護団体や会員の方を、福岡県の河川功労者表彰などへ積極的に推薦しています。 	活動実績	活動結果は下記のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	河川愛護団体結成促進のためのPR活動等			予定どおり実施			大変順調 順調
	エコライフステージへの出展や、福岡県河川功労者表彰への積極的な推薦により、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。	—	—		やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	後継者不足などから活動を断念する団体があったため、団体総数は、目標には達しませんでした。しかし新規加入団体が1団体あり、活動の輪が広がっていると考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	河川愛護団体の行う清掃や除草を他の方法で行うと、業者への委託となりコストが高くなります。また、地域の住民のようなきめ細かな対応は困難です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	緑政課
課長名	千々和

事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり					施策番号	
						Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるつちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) H25年度予算には、前年からの繰越分があります。	目安の金額	課長 0.05人 係長 0.35人 職員 1.00人		(人件費備考)
事業費	99,375 千円	129,583 千円		11,575 千円			

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市内各所が花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどりと潤いのまちづくり」を目指します。 緑地保全地区においては、都市内の緑を保全するため、土地取得を行います。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	公共花壇及び市民花壇の面積			45,766 m ²	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	公共花壇及び市民花壇は市民に一番近いにある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協力で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) H27年度 46,587m ²	44,829 m ²	45,687 m ²	100.2 %			
	特別緑地保全地区の買収面積			0 m ²	やや遅れ 遅れ	順調	
特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)	2,400 m ²	2,400 m ²	0.0 %				
活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動実績	フラワーコーディネーターによる花づくりの講習会は、大変好評です。「勝山公園うるつちゃ!花壇」では、市民ボランティアによる市制50周年を記念したデザインで花飾りをしました。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	花づくりに関する講座の開催			10 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	13 回	10 回	100.0 %			
					やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民花壇においては、フラワーコーディネーターによる種からの花づくりの現地指導や講座の開催などを行い、ボランティア団体間での交流の推進を行うことが出来たと考えられます。また、公共花壇で活動を行っている「勝山公園うるつちゃ!花壇」では、ボランティア団体自ら市制50周年をお祝いする花壇デザインを行うなど活動が活発に行われています。 特別緑地保全地区については、H24年度用地取得箇所については、地権者との交渉に時間を要していますが、H25年度には取得する予定です。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民花壇や学校等でのフラワーコーディネーターの指導箇所が増加するなど「経済性」は向上したと考えられます。スポンサー花壇については企業の廃業等により若干の減となりましたが、これまでと同様に企業・団体に協力していただき効果的な維持管理を行うことが出来ました。 今後は、市民や企業、団体との協働を更に推進していくためにも、市民花壇等のボランティア団体の活動を民間企業等に業務委託することで、民間の活力の導入と経済性・効率性の向上を図り、事業のPRを検討し進めます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	公園建設課
課長名	藤井

事業名	子育てに配慮した公園整備				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業概要	親子が集まる市民センターなどに隣接する公園の一角に乳幼児を対象としたコーナー(囲い)を整備しました。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	8,796 千円	0 千円		4,825 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本事業は、既存公園に子育てに配慮したコーナーを設置することにより、乳幼児の心身の発達に役立ち、子育て中の保護者のストレスが軽減され、保護者が育児経験者などと世代を越えた情報交換や交流の場として寄与するなど少子化社会へ向けた地域社会の活性化を図ることを目的としています。			成果実績	1公園に乳幼児コーナーを整備しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	年度ごとに乳幼児コーナーを公園に整備					代表的成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	利用者からは「公園に来る回数が増えた。」「子育て中の親同士で話ができて、子育て中の不安やストレスが軽くなった。」などの好評な意見を頂いていますが、地域の活性化は数値で表すことは困難だと考えています。 (最終目標と目標年度) H24年度				- %	大変順調		
	(最終目標と目標年度)					やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	今後は、地域に役立つ公園づくり事業等で、地元協議の際に子育て公園事業の要望があれば、子育て公園事業の概念を活かした整備を行って行くこととなったため、H24年度をもって事業を完了しました。			活動実績	徳吉中央公園に乳幼児コーナー(安全柵・幼児用複合遊具・休憩舎・手洗い等)を整備しました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	子育てに配慮した公園整備の件数			1 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	H24年度完成に向け、公園整備の件数を指標として設定しています。	1 件	1 件	100.0 %	大変順調		
						やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	公園利用者からは好評な意見を頂いています。 本事業はH24年度を持って終了となりますが、今後は地域に役立つ公園づくり事業等で、子育てに関する要望があれば、本事業の概念を活かした整備を行っていく予定です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	育児サークル等が活動する市民センターや児童館等に隣接する公園で実施しており、人の集まりやすい場所に整備することで、多くの市民に利用されていることから効率的に整備を行っており、効果は高いと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	公園建設課
課長名	藤井 清昭

事業名	地域に役立つ公園づくり事業				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業概要	計画段階から地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指すものです。具体的には、小学校区を1つの単位として、まちづくり協議会を中心とする地域住民と協働で校区内にある街区公園の再整備計画を策定し、整備を行います。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	290,120 千円	230,000 千円		6,825 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域住民によるワークショップを行うことにより、地域のニーズに合った市民目線での計画を策定し、公園を身近に感じられ、公園を積極的に活用してもらう状態にすることを目指します。			成果実績	ワークショップを行った校区の公園、36箇所の整備を行いました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民が身近に公園を感じられる状態	-	市民が身近に公園を感じられる状態を目指します。	-		
	「市民が身近に公園を感じられる状態」は数値で表すことは困難だと考えています。 (最終目標と目標年度)			- %		
	当事業の公園工事実施公園数 代替の指標として「当事業の実施公園数」などで実績を算出します。 (最終目標と目標年度)	38 公園	36 公園	36 公園 100.0 %		順調

活動計画	当事業はH20年度より実施しておりH24年度については4校区のワークショップを開催し、計画策定を行います。その翌年より約2か年をかけて整備を行います。	活動実績	4校区のワークショップを開催しました。またH22、H23に計画策定した校区の公園整備を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	計画策定校区数	4 校区	4 校区	4 校区		
	毎年、各区の事業実施進捗率や公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性等をもとに複数校区選定し、計画策定を行っていきます。			100.0 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	H24年度に4校区行い、地域の公園の現状、問題点をワークショップを通して共有することができました。参加者の皆様からも「地域の公園ことが把握でき、良い機会であった。」「公園管理についても積極的に話ができてよかった。今後、地域で話し合う機会を持ちたい。」等、高い評価を受け、地域に根付いた身近に感じられる公園として認識してもらうことができました。また全体的に老朽化が進んでおり、地域住民の意見を聞きながら当事業を行うことは、事業目的を達成する上で有効であると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	整備については公園施設の使用できるものは再利用し、本当に必要な整備かどうかを地域の皆様とよく議論し、常に工事のコスト縮減を踏まえた上で効率的な計画づくりを行っています。民間活力については公共性の極めて高い事業であるため、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	田口

事業名	暮らしにうるおいを与える河川整備事業					施策番号	
						Ⅲ - 1 - (2) - ③	
事業概要	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境、地域の景観などへの配慮が不足し、私達の日常生活から河川を遠ざけてしまいました。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、市民の憩と潤いの場として活用し、生物の生息・生育環境を保全することによって、親しみのある河川を取り戻す水辺環境整備事業を行っています。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
		602,100 千円	630,000 千円			48,250 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境、地域の景観などへの配慮が不足し、私達の日常生活から河川を遠ざけてしまいました。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、市民の憩と潤いの場として活用し、生物の生息・生育環境を保全することによって、親しみのある河川を取り戻す水辺環境整備事業を行っています。			成果実績	計画的な整備により、市民が河川に親しみやすい環境整備が進んでいると考えています。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	市民が河川に親しみを感ずる状態		市民が河川に親しみを感ずる状態を目指します。	—	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民が河川に親しみを感ずる状態を数値で表すことは困難ですが、今後、代替指標の設定などを検討します。 (最終目標と目標年度)市民が河川に親しみを感ずる状態	—		—			
					やや遅れ	順調	
(最終目標と目標年度)				遅れ			

活動計画	河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
------	--	------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	環境に配慮した護岸整備延長		32,800 m	32,800 m	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	護岸工事を行なう際に、魚巣ブロック等、生物に配慮した護岸の整備を進めることにより、生物の生息・生育環境を保全します。	32,700 m		100.0 %		
					やや遅れ	順調
				遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	護岸工事を行う際には、ほとんどの河川で環境に配慮した整備を行っており、成果の状況、活動の状況、いずれも順調です。昨年度、最終目標を大きく越えたため、目標数値の変更を行っています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	各河川ごとに工法の検討などを行い、一番安価で効果のある工法を選択しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	橋口 基

事業名	バリアフリーのまちづくり				施策番号	
					Ⅲ - 1 - (3) - ②	
事業概要	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、バリアフリーのまちづくりを進めます。具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	1,053,328 千円	1,561,000 千円			63,650 千円	(人件費備考)

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	急速な少子高齢化の進展に対応するためには、高齢者や障害者など誰もが安全で快適に活動できるバリアフリーのまちづくりが求められています。平成18年にはバリアフリー新法も施行され、その必要性はさらに高まっています。本事業は、バリアフリー新法にも対応したよりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。	成果実績	計画的な歩道整備により、高齢者や障害者が安心して活動できる状態が進んでいると考えます。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民がバリアフリーのまちづくりを感じられている状態	—	市民がバリアフリーのまちづくりを感じられる状態を目指します	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	高齢者や障害者など誰もが安全で快適に活動できるバリアフリーのまちづくりを感じられている状態を数値で表すことは、困難だと考えています。 (最終目標と目標年度)			%		
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図っていきます。	活動実績	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」との意見交換会や公共施設周辺のバリアフリー現地点検を実施し、その結果をハード整備に反映させました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	歩道整備延長	7.5 km	5.0 km	5.3 km	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行った整備延長			106.0 %		
	主要駅周辺のバリアフリー特定経路の整備延長	0.2 km	0.2 km	0.18 km	やや遅れ 遅れ	順調
主要な駅の周辺において、公共施設や病院などを結ぶ主要な道路を主要経路と定めて、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を進めています。	90.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	本市における高齢化率は、全国平均を大きく上回るとともに、他の政令指定都市と比べ最も高く、高齢化が急速に進展しています。少子高齢化社会を先取りする先進的な取り組みが求められる中でバリアフリー化の推進は必要不可欠であり、着実な取り組みを継続することが必要であると考えます。現在、道路計画課の担当係長及び職員が主体的に「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」と調整等を行い、各区において適切なバリアフリー整備に取り組むとともに、東西整備事務所及び各区まちづくり整備課において、歩道整備や歩道の段差解消等の改修を行っています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本市は平成9年度より小倉都心地区をモデル地区とし、市民との協働によるバリアフリーのまちづくりを行っております。現在もバリアフリー化については「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」と現地点検や意見交換会を行いながら、事業を進めています。なお、現在のところ、歩道の新設、改良については他の実施主体は考えられないため、実施主体は市が適当だと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	田口

事業名	撥川の整備			施策番号		
				V - 1 - (2) - ②		
事業概要	撥川をもう一度魚が住み、植物が生え、人々が水辺に近づける川に蘇らせようと市民参加のもと「撥川ルネッサンス計画」を平成9年に策定しました。 本事業は、この計画をもとに、単なる治水事業でなく、副都心黒崎のシンボル「撥川」として河川整備を行うものであり、具体的には、人々が水辺に近づける川を整備し、周辺に整備される文化施設等と調和した潤いある水辺空間を創出するものです。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	203,012 千円	111,000 千円			8,075 千円	係長 0.30 人 職員 0.60 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 撥川をもう一度魚が住み、植物が生え、人々が水辺に近づける川に蘇らせようと市民参加のもと「撥川ルネッサンス計画」を平成9年に策定しました。 本事業は、この計画をもとに、単なる治水事業でなく、副都心黒崎のシンボル「撥川」として河川整備を行うものであり、具体的には、人々が水辺に近づける川を整備し、周辺に整備される文化施設等と調和した潤いある水辺空間を創出するものです。			成果実績	計画的な整備により、市民が河川に親しみやすい環境整備が進んでいると考えています。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民が河川に親しみを感ずる状態	-	市民が河川に親しみを感ずる状態を目指します。	-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民が河川に親しみを感ずる状態を数値で表すことは困難ですが、今後、代替指標の設定などを検討します。 (最終目標と目標年度)市民が河川に親しみを感ずる状態			-		
	(最終目標と目標年度)				遅れ	順調

活動計画	文化・交流拠点地区内の整備は平成24年夏に竣工しました。引き続き、地域の意見を反映し、潤いのある水辺空間の創出の実現にむけ、整備を行っていきます。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	事業の進捗率	95 %	97 %	97 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	平成26年度の河川改修の完了に向け、事業の円滑な進捗に努めます。			100.0 %		
					やや遅れ	順調
				遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	工事については、ほぼ順調に進められていますが、平成25年度整備予定箇所について、関係機関との調整が難航していますが、平成26年度の完了に向け、事業の進捗を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	概ね、効率的であり、コストを縮減する余地は少ないですが、工事を実施する際は、より経済的な工法を選択しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	橋口

事業名	主要幹線道路の整備				施策番号	
					V - 2 - (2) - ①	
事業概要	物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、市内の渋滞対策やネットワーク強化のための主要な幹線道路の整備を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	9,434,928 千円	7,045,540 千円			217,250 千円	(人件費備考) 本庁道路部+東西整備事務所の職員を対象に試算しています。

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「ひびきコンテナターミナル」や「北九州空港」など港湾・空港へのアクセス道路の整備を行い、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業の誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。			成果実績	暫定整備など計画的な整備により、着実に幹線道路の整備が推進されていると考えています。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	主要幹線道路整備による市民生活や産業活動の効率化	-	主要幹線道路の整備により、市民活動、産業活動の効率化を図ります。	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	国道3号(黒崎バイパス)をはじめ、主要幹線道路の整備を推進し、物流の効率化を図ります。 (最終目標と目標年度)			%			
	(最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。			活動実績	新若戸道路の開通や黒崎バイパスの都市高速への接続など主要幹線道路の整備を推進しました。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	主要幹線道路の単年度完成延長(4車線のうち2車線等暫定の完成を含む)			9.0 km	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な幹線道路の整備を進めています。	0.4 km	9.0 km	100.0 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	道路整備に関し、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分に配慮しながらコスト削減を図っていきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	橋口

事業名	主要幹線道路の整備				施策番号	
					V - 2 - (2) - ②	
事業概要	物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、市内の渋滞対策やネットワーク強化のための主要な幹線道路の整備を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	9,434,928 千円	7,045,540 千円			217,250 千円	(人件費備考) 本庁道路部+東西整備事務所の職員を対象に試算しています。

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「ひびきコンテナターミナル」や「北九州空港」など港湾・空港へのアクセス道路の整備を行い、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業の誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。			成果実績	暫定整備など計画的な整備により、着実に幹線道路の整備が推進されていると考えています。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	主要幹線道路整備による市民生活や産業活動の効率化	-	主要幹線道路の整備により、市民活動、産業活動の効率化を図ります。	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	国道3号(黒崎バイパス)をはじめ、主要幹線道路の整備を推進し、物流の効率化を図ります。 (最終目標と目標年度)			%		順調	
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。			活動実績	新若戸道路の開通や黒崎バイパスの都市高速への接続など主要幹線道路の整備を推進しました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	主要幹線道路の単年度完成延長(4車線のうち2車線等暫定の完成を含む)			9.0 km	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な幹線道路の整備を進めています。	0.4 km	9.0 km	100.0 %		順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	発注した工事については、ほぼ順調に進められています。引き続き用地の確保に努めながら、早期に効果が現れるよう、暫定整備や一定区間の整備を図っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	道路整備に関し、コスト削減を図っており、引き続き、品質の確保にも十分に配慮しながらコスト削減を図っていきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路維持課
課長名	東

事業名	橋梁の長寿命化への計画的な取り組み				施策番号	
					V - 3 - (1) - ②	
事業概要	市内には、約2,000の橋梁があり、これら橋の多くは1,950年代から1,980年代に建設されたもので高齢化・老朽化の進展が懸念されています。そこで、長期的視点にたち立ち効率的・効果的に管理するアセットマネジメントの考え方を取り入れ、従来の悪くなったら補修する対症療法型を改め、計画的に手を入れて長持ちさせる予防保全型に移行するため、「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」を策定(H22.7計画公表)しました。本事業は、この計画をもとに、予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁を増加させることで市民の安全・安心を確保します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	2,197,821 千円	2,046,000 千円		90,650 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	平成19年度から平成21年度にかけて策定した『北九州市橋梁長寿命化修繕計画』に基づき、今後は主要橋梁(緊急輸送道路上の橋や橋長15m以上の橋梁など)に対して予防保全型の維持管理を行っていきませんが、すでに老朽化が進み抜本的な治療が必要な健全度Ⅳ、Ⅴの橋梁について、補修補強工事を実施し、予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁を増加させることで市民の安全・安心を確保します。			成果実績	当事業の成果の検証を毎年度数値で検証することは困難ですが、予防保全が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁を増加させることで市民の安全・安心を確保します。
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	主要橋梁の健全化の向上による市民の安全・安心の確保	—	予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁を増加させます。	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	主要橋梁の健全化を数値で検証することは困難ですが、すでに老朽化が進んでいる128橋を予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施します。健全度ランクⅢ以上の割合が増加することで、予防保全型管理への移行の様子が把握できます。 (最終目標と目標年度)			— %		
(最終目標と目標年度)						順調

活動計画	今年度実施予定の24橋について健全度を向上するように補修補強工事の完成を目指します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	主要橋梁の健全化率の向上	78 %	81 %	80 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	平成31年度までに全ての主要橋梁が健全度ランクⅢ以上となることを目指し、事業の進捗率を指標として設定しました。			98.8 %		
						順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況については、事業が予定どおり進んでいるため順調としました。 成果の状況については、毎年度数値で検証することが困難ですが、橋梁の長寿命化工事に対し計画的に取り組むことで維持管理トータルコストの縮減が図られ、市民の安全・安心を確保することができます。このため、本事業を実施することは事業目的を達成する上で有効であると判断し順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本計画に基づく補修補強工事の実施により、従来型の維持管理と比較し、今後100年間で約6割のトータルコスト縮減の効果が得られ、予算の平準化が可能となりました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	公園管理課
課長名	菊山

事業名	長野緑地を利用した農業体験教室				施策番号	
					VI - 1 - (2) - ②	
事業概要	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組むとともに、収穫祭や草遊び等、市民の参加を拡大するイベント等を開催します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	2,600 千円	2,600 千円		1,595 千円	(人件費備考)	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業ではH15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民参加による農業体験教室の参加者数	1,759 人	2,000 人	2,068 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	H15年度に事業を開始しH20年度に参加者数が2,000人を超えました。毎年度2,000人を超える参加者を目指します。 (最終目標と目標年度) 毎年度参加者数2,000人			103.4 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年、天候や気象条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めていきます。地元の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達とのふれあいや、一緒に作業することへの喜びが得られることを期待しています。事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。	活動実績	左記活動計画を実施しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民参加による農業体験教室の実施	37 回	50 回	50 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	野菜作りの基本学習、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。ひまわり、コスモスの種をまきを行い、花畑整備を行います。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	天候に左右される事業ですが、今年度も天気にも恵まれ、成果指標・活動指標ともに目標を達成し、状況はいずれも順調です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	委託している「NPO法人長野美し村計画実行委員会」の主な構成員は、地元の農業従事者であり、自宅からの長野緑地までの距離が近いことや農業用耕作機械等の調達等の面で有利です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	田口

事業名	市民がほたるなどの自然とふれあう環境の創出				施策番号 VI - 4 - (1) - ②	
	事業概要 ホタルの保護育成活動を行っている団体等への指導や支援、意見交換及びホタルが生息可能な環境の整備を行い、ホタルや水辺環境の保全を市民と一体となって取り組み、川づくりやまちづくりを推進していきます。 また、公害の街を克服して、多くの河川でホタルを蘇らせることに成功した実績や環境首都の実現に向けてホタルに係る取り組み・情報を国内外に発信します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) ほたる関連の市制50周年記念事業のため、25年度は予算額が増加しています。	目安の金額	課長	0.00 人
	7,808 千円	10,689 千円	人件費		係長	0.50 人
				8,750 千円	職員	0.50 人

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 北九州市は大都市でありながら、60を超える河川でホタルが飛翔するなど、豊かな自然環境に恵まれ、身近なところで自然や生物に触れることができます。その自然環境を保全・創造するため、市民が行うホタルの保護育成など自然環境の保全活動を支援します。	成果実績	交付団体数は、前年度と同数の9団体で、目標達成率は、69.2%でした。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	ほたる育成助成金交付団体数	9 団体	13 団体	9 団体 69.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	助成金には7年間の交付期限があり、これまでに20団体への交付が終了しました。交付を受けた団体は、助成終了後もホタル保護活動を継続し、ホタルを通じた地域の自然環境の保護活動を牽引しています。 (最終目標と目標年度) 13団体(25年度)					
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	北九州市ほたる館(指定管理者)及び北九州ほたるの会との連携を強化し、ほたる館のホタル増殖技術を用いた「幼虫の放流事業」、北九州ほたるの会の専門家を活用した「ほたるアドバイザー派遣」を総合的に連携させ、ホタルを通じた市民主体の自然の保護・保全活動を支援します。	活動実績				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	ほたるアドバイザー派遣回数	7 団体	10 団体	9 団体 90.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内のホタル専門家をアドバイザーとしてホタル保護団体等に派遣することにより、ほたるの保護育成活動の技術を維持・継承することが可能となり、ホタルを通じた自然環境の保全活動を支援します。					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	ホタル育成助成金は、交付団体が9団体で目標には届きませんでした。2~4年と活動歴の浅い団体が5団体と、活動の継続と広がりがあり、概ね順調でした。 また、ほたるアドバイザー派遣についても、前年度比で2団体増加するとともに、制度の周知により年間を通じてほたる館に相談があるなど、市民を中心とした自然環境保全の活動範囲は広がり、一定の効果を発揮しているものと考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ホタルの保護育成活動の一環として、市民ボランティアによる草刈りやゴミ拾い等の河川をきれいにする活動が着実に広がっており、河川の維持管理費の削減に効果を発揮しています。 また、ホタル等の愛護団体は地域の自治組織が主体となっていることが多く、他の市の事業とも密接な関わりを持つため、それらを考慮すると民間に事業を委託することは難しいと考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	田口

事業名	市民がほたるなどの自然とふれあう環境の創出					施策番号	
						VI - 4 - (1) - ③	
事業概要	ホタルの保護育成活動を行っている団体等への指導や支援、意見交換及びホタルが生息可能な環境の整備を行い、ホタルや水辺環境の保全を市民と一体となって取り組み、川づくりやまちづくりを推進していきます。 また、公害の街を克服して、多くの河川でホタルを蘇らせることに成功した実績や環境首都の実現に向けてホタルに係る取り組み・情報を国内外に発信します。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) ほたる関連の市制50周年記念事業のため、25年度は予算額が増加しています。	人件費	目安の金額		課長 0.00人 係長 0.50人 職員 0.50人
	7,808 千円	10,689 千円			8,750 千円		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)にしたいのか	北九州市は大都市でありながら、60を超える河川でホタルが飛翔するなど、豊かな自然環境に恵まれ、身近なところで自然や生物に触れることができます。その自然環境を保全・創造するため、市民が行うホタルの保護育成など自然環境の保全活動を支援します。	成果実績	交付団体数は、前年度と同数の9団体で、目標達成率は、69.2%でした。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	ほたる育成助成金交付団体数 助成金には7年間の交付期限があり、これまでに20団体への交付が終了しました。交付を受けた団体は、助成終了後もホタル保護活動を継続し、ホタルを通じた地域の自然環境の保護活動を牽引しています。 (最終目標と目標年度) 13団体 (25年度)	9 団体	13 団体	9 団体 69.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調

活動計画	北九州市ほたる館(指定管理者)及び北九州ほたるの会との連携を強化し、ほたる館のホタル増殖技術を用いた「幼虫の放流事業」、北九州ほたるの会の専門家を活用した「ほたるアドバイザー派遣」を総合的に連携させ、ホタルを通じた市民主体の自然の保護・保全活動を支援します。					活動実績	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	ほたるアドバイザー派遣回数 市内のホタル専門家をアドバイザーとしてホタル保護団体等に派遣することにより、ほたるの保護育成活動の技術を維持、継承することが可能となり、ホタルを通じた自然環境の保全活動を支援します。	7 団体	10 団体	9 団体 90.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	ホタル育成助成金は、交付団体が9団体で目標には届きませんでした。2~4年と活動歴の浅い団体が5団体と、活動の継続と広がりがあり、概ね順調でした。 また、ほたるアドバイザー派遣についても、前年度比で2団体増加するとともに、制度の周知により年間を通じてほたる館に相談があるなど、市民を中心とした自然環境保全の活動範囲は広がり、一定の効果を発揮しているものと考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	ホタルの保護育成活動の一環として、市民ボランティアによる草刈りやゴミ拾い等の河川をきれいにする活動が着実に広がっており、河川の維持管理費の削減に効果を発揮しています。 また、ホタル等の愛護団体は地域の自治組織が主体となることが多く、他の市の事業とも密接な関わりを持つため、それらを考慮すると民間に事業を委託することは難しいと考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)